



イヌはいつごろから、何種類くらいいるの

およそ1万2000年以上の前から

今から1万2000年ほど前の、人間のすんでいたあとからイヌの骨が出てきますので、それ以前から人間といっしょにくらしていたようです。

イヌは、地球上のほとんどの国々で、古くから人間といっしょに生活しています。イヌを知らなかったのは、小さな島(タスマニア島やアンダマン島など)にすむ人々だけのようです。

イヌの祖先

イヌに近い動物は、オオカミ、コヨーテ、ジャッカルなどがいます。イヌとこの3種類の動物のあいだで、雑種が生まれますので、非常に近い動物であることがわかります。

イヌの祖先については、この3種類に近い「野生のイヌ」という動物がいて、それがイヌの祖先であるとする考えと、オオカミを飼いならしたものが祖先だとする意見に分かれています。いずれにしても、イヌは人に飼われるようになり、人が移り住むときに、つれていかれ、世界中に広まりました。新しい土地土地で、そこにすむ、オオカミなどと血が混じり、人間が目的にあうように改良したために、今日の多くの品種が生まれたと考えられます。

イヌの品種登録

イヌは、手のひらにのるほど小さいチワワから、肩までの高さが65センチメートル、重さ100キログラムをこすセントバーナードまで、大きさも形も、さまざまな種類があります。

イヌの品種を登録する団体が、世界中にいくつかあります。団体により、登録数に、ちがいはありますが、およそ100～140種が登録されています。(監修・今泉 忠明)

{ { 動物 } }

